

「主の力
は完全
主の恵み
は十分」

「主の力は完全 主の恵みは十分」

列王記第一 17章

預言者エリヤの逃亡の日々

預言者エリヤの逃亡の日々

0. イントロダクション

I. アハブ王への警告 17章1節

II. ケリテ川のほとりで 17章2～9節

III. シドンのやもめの家で 17章10～24節

IV. まとめと適用

シドンの女から続く異邦人信者の系譜

私も主の証人として建て上げられよう

ヨルダンのワジ



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

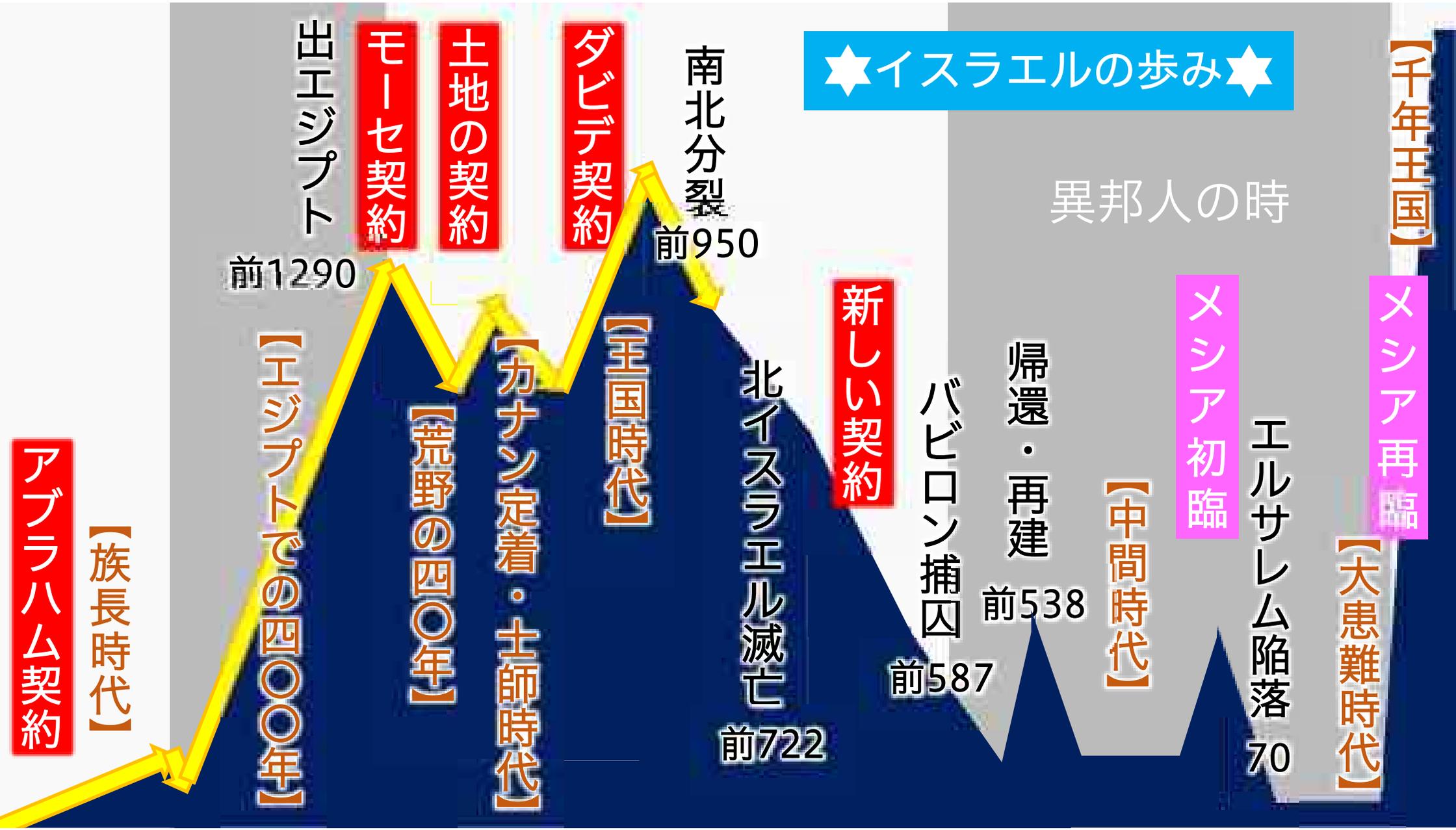
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

前722

北イスラエル滅亡

新しい契約

前587

バビロン捕囚

前538

帰還・再建

【中間時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【大患難時代】

メシア再臨

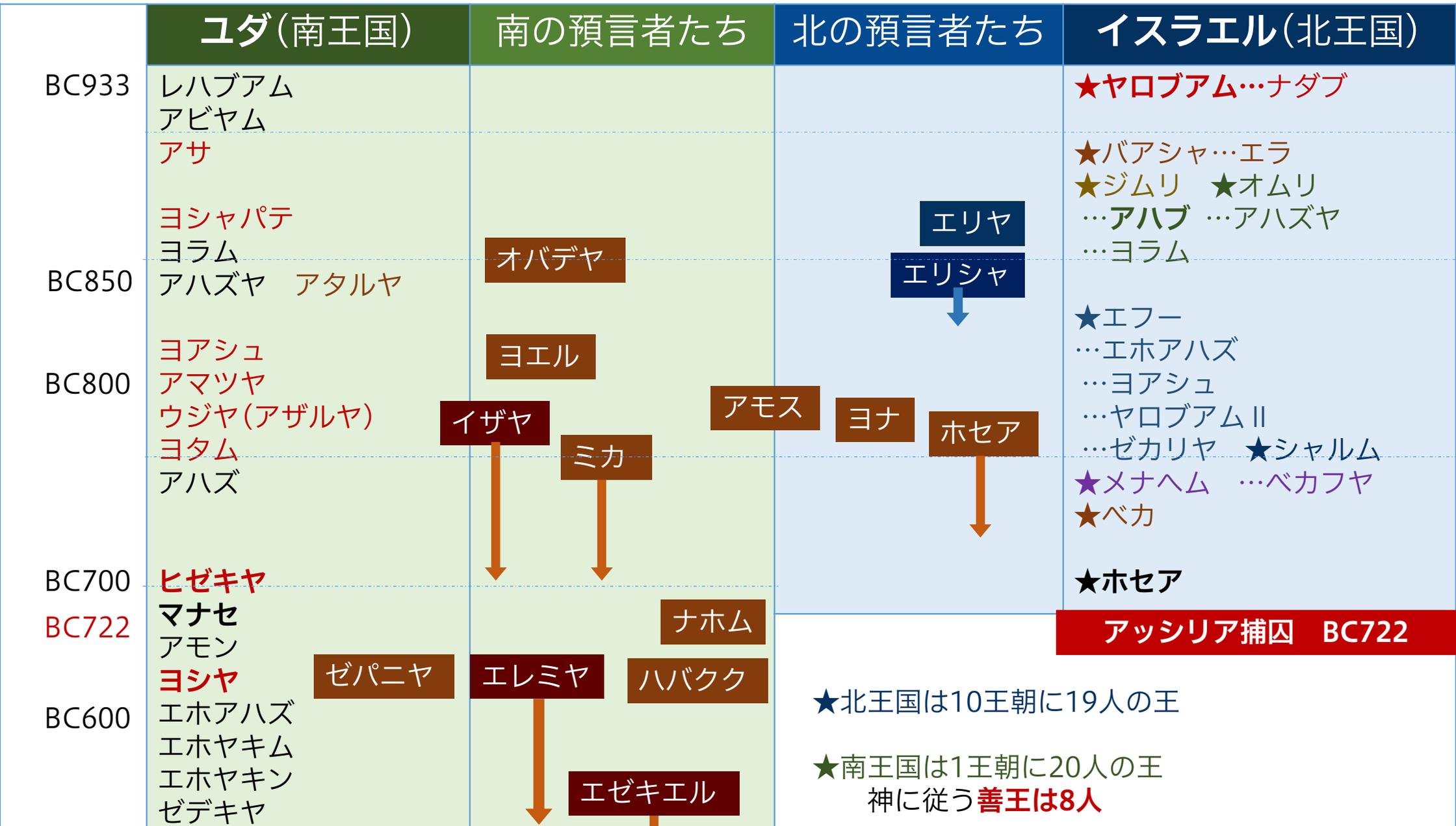
【千年王国】

異邦人の時

列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バアシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ	
	2〜13章	預言者エリシャ			ホセア
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			

★北王国は10王朝に19人の王
★南王国は1王朝に20人の王



★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

墮落の一途をたどった北王国の末路

■ ソロモンの死後、王国は分裂。北王国の王となった**ヤロブアム**は、金の子牛を築き、レビ人を追放、偽祭司を立て、偶像を蔓延させた。

■ 背教の末、ヤロブアムの一族は、二代目ナダブの時代に全滅。

➔ 以後、北王国は王朝が変わる度に、王族は全滅。

■ 王たちはことごとく**ヤロブアムの道**に進み、闇は深まっていった。

■ 北王国7代目の王**アハブ**は、ヤロブアムの罪も軽く見えるほど。

イゼベルを妻とし偶像礼拝を国の礎に!!

北王国は最悪の時代に!!

預言者の系譜

■ **預言者**とは、「神の言葉を預かり、民に告げる者」

→ 予見者、神の人とも呼ばれる。…アブラハム、モーセも預言者。

■ 最初に**預言者**を組織化したのが、サムエルだった。(1サム10章)

ダビデが組織した奏楽隊は、**預言者**集団でもあった。(1歴25:1)

■ **預言者**たちは、神の律法を学び、人々に教えた。

危機の時代には、時に、神の直接の言葉(**預言**)を王や民に告げた。

→ **預言**の多くは、叱責や警告。時に、称賛や奨励も。

■ イスラエルの背教により滅亡がせまる南北時代、

預言者の働きが強まっていく。

南北時代は、
預言者の時代!!

北王国 イスラエル

【ヤロブアム王朝】

ヤロブアム

22年

ナダブ
2年

【バアシャ王朝】

バアシャ

24年

エラ
2年

ジムリ
7日

オムリ

12年

エリヤ

エリシャ

イゼベル 

【オムリ王朝】

アハブ 

22年

ヨラム

アハズヤ
2年

12年

南王国 ユダ

レハブアム

17年

アビヤム
3年

アサ 

40年

ヨシャパテ 

25年

ヨラム

8年



Ⅰ. アハブ王への警告

Ⅰ 列王記17章1節

サマリヤ

【エリヤの預言】 | 列王記17:1

ギルアデ*の住民であるティシュベ人エリヤ*はアハブに言った。「私が仕えているイスラエルの神、【主】は生きておられる*。私のことばによるのでなければ*、ここ数年の間、露も降りず、雨も降らない。」

*ヨルダン川東岸・マナセの半部族の地。

“ヤハウエはわが神” …ティシュベは不明。

神の約束の成就を保証する言葉。

エリヤが告げるまで雨は降らない。



申命記11:16~17

気をつけなさい。あなたがたの心が惑わされ横道に外れて、ほかの神々に仕え、それを拝むことのないように。

そうでないと、【主】の怒りがあなたがたに向かって燃え上がり、主が天を閉ざし、雨は降らず、地はその産物を出さなくなる。

【預言の背景】 | 列王記

- 王アハブが信奉していたバアルは豊穡神。雷の神であり、雨をもたらす神。
 - ➔ 雨が降らないのは、**偶像神バアルへの裁き**
(※エジプトの十の災いも偶像神への裁き)
- 雨を降らさない力を持つ主こそ、真実の神。
 - ➔ エリヤの預言は、アハブへの**宣戦布告**。
- アハブは、即座にエリヤを殺そうとしただろう。
 - ➔ 主に守られ、エリヤの**逃亡生活**が始まる。





II. ケリテ川のほとりで

I 列王記17章2～9節

ヨルダンの溪谷

【ヨルダン川の東へ】 Ⅰ 列王記17:2～4

それから、エリヤに次のような【主】のことばがあった。
「ここを去って東へ向かい、ヨルダン川の東にあるケリ
テ川*のほとりに身を隠せ。

あなたはその川の水を飲むことになる。わたしは鳥*に、
そこであなたを養うように命じた。」

*場所不明

*律法の食物規定では穢れた鳥。ノアの下では役立たず。

「ヨブ記 38:41 鳥に餌を備えるのはだれか。鳥の子が神
に向かって鳴き叫び、食物がなくてさまようときに。」

■ サマリヤからヨルダン川の東へ。逃亡生活の始まり。



【鳥に養われるエリヤ】 Ⅰ列王記17:5～6

そこでエリヤは行って、【主】のことばどおりにした*。彼はヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに行って住んだ。

何羽かの鳥*が、朝、彼のところにパンと肉を、また夕方にパンと肉を運んで来た。彼はその川から水を飲んだ。

*預言者に求められる唯一の姿勢。

*穢れた、頼りない鳥に養われた。

*荒野のイスラエルは、天のパン(マナ)と肉によって養われた。



神の民の代表として
試練を受けるエリヤ

【異邦人の地シドンへ】 | 列王記17:7~9

しかし、しばらくすると、その川が涸れた。その地方に雨が降らなかったからである。

すると、彼に次のような【主】のことばがあった。

「さあ、シドンのツアレファテ*に行き、そこに住め。見よ。わたしはそこの一人のやもめに命じて、あなたを養うようにしている。」

*イゼベルの出身地。当時のバアル礼拝の中心地

■ エリヤは、まさに敵地のただ中へ!!

➡ 偶像礼拝の地で主を証しするために!!





III. シドンのやもめの家で

I 列王記17章10～24節

ソロモンも輸入したレバノン杉

【肥沃な三日月地帯】

■ ティグリス・ユーフラテス川
ナイル川

→ 二つの大河に挟まれた
豊かな穀倉地帯

■ 古代オリエント文明の中心地
その継ぎ目にイスラエルが置かれた。

■ シドン、ツロもこの豊かな地の一角。
イスラエルよりずっと森林も多い。



【ツアレファテで】 | 列王記17:10~11

彼はツアレファテ*へ出て行った。その町の門に着くと、ちょうどそこに、薪を拾い集めている一人のやもめがいた。そこで、エリヤは彼女に声をかけて言った。「水差しにほんの少しの水を持って来て、私に飲ませてください。」

彼女が取りに行こうとすると、エリヤは彼女を呼んで言った。「一口のパンも持って来てください。」

*“精製する所” …精油所。オリーブ油の産地。

豊かなシドンも干ばつの影響下におかれていた。

■エリヤは、主が命じたやもめだと察したのだろう。



【女の状況】 | 列王記17:12

彼女は答えた。「あなたの神、【主】は生きておられます*。私には焼いたパンはありません。ただ、かめの中に一握りの粉と、壺の中にほんの少しの油があるだけです。ご覧のとおり、二、三本の薪を集め、帰って行って、私と息子のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです。」

*ヤハウエの名を知っていた女。エリヤの預言も？

➡干ばつをもたらした張本人として指名手配中!?

あいつのせいだと声高には言えないが…。

➡ツロ(シドン)の王ヒラムは、ダビデの盟友

職人ヒラムは、エルサレム神殿の青銅細工の長



【主の言葉】 | 列王記17:13~14

エリヤは彼女に言った。「恐れてはいけません。行って、あなたが言ったようにしなさい。しかし、まず私のためにそれで小さなパン菓子を作り、私のところに持って来なさい。その後で、あなたとあなたの子どものために作りなさい。イスラエルの神、**【主】**が、こう言われるからです。『**【主】**が地上に雨を降らせる日まで、そのかめの粉は尽きず、その壺の油はなくなるらない。』」

■ 試されているのは、この女の主への信仰。



【主が養われた】 | 列王記17:15~16

彼女は行って、エリヤのことばのとおりにした。彼女と彼、および彼女の家族も、長い間それを食べた。エリヤを通して言われた【主】のことばのとおり、かめの粉は尽きず、壺の油はなくならなかった。

- 最後の食糧をエリヤに分け与えた女。
 - ➔主の約束を信じ、言葉に忠実に従った結果、約束通り、粉も油も尽きなかった。
- 主の勝利。豊穡をもたらすのはバアルでなく、イスラエルの神・ヤハウェである。

時に、徹底した従順を求める主の試練がある



【次なる試練】 | 列王記17:17~18

これらのことの後、この家の女主人の息子が病気になった。その子の病気は非常に重くなり、ついに息を引き取った。

彼女はエリヤに言った。「神の人よ、あなたはいったい私に何をしようとされるのですか。あなたは私の咎*を思い起こさせ、私の息子を死なせるために来られたのですか。」

*彼女自身も偶像礼拝者だったのである。

■ 女のエリヤへの訴えは、主への叫びでもある。主を見上げ続けるところに、女の信仰がある。



Ⅰ 列王記17:19～20

彼は「あなたの息子を渡しなさい」と彼女に言って、その子を彼女の懐から受け取り、彼が泊まっていた屋上の部屋に抱えて上がり、その子を自分の寝床の上に寝かせた。

彼は【主】に叫んで祈った。「私の神、【主】よ。私が世話になっている、このやもめにさえもわざわいを下して、彼女の息子を死なせるのですか。」



【エリヤの祈り】 | 列王記17:21

そして、彼は三度その子の上に身を伏せて*、
【主】に叫んで祈った。「私の神、【主】よ。
どうか、この子のいのちをこの子のうちに戻し
てください。」

*主が示され、エリヤは従っただけだろう。

この場面だけに有効。➡癒やしの祈りの原則。

■エリヤは、自分自身の命すら主に注ぎ出して、
全身全霊の祈りを神にささげた。

問われるのは祈りのスタイルではなく、本質



【主に聞かれた願い】 | 列王記17:22

【主】はエリヤの願いを聞かれた*ので、子どものいのちがその子のうちに戻り、その子は生き返った。

*主は聞かれた。➡これが祈りの結果のすべて。

■エリヤは、この子が生き返ることこそ、主の御心であると、主に聴く心で確信していた。

■主の願いに叶うことは、絶対に実現される。

約束の主のご計画に沿うことは、必ず成就する。

(※エリヤは、律法を学び、理解していた預言者)

主の御心に適う祈りは、絶対に主に聞かれる



【シドンの女の信仰告白】 | 列王記17:23~24

エリヤはその子を抱いて、屋上の部屋から家の中に下りて、その子の母親に渡した。エリヤは言った。「ご覧なさい。あなたの息子は生きています。」

その女はエリヤに言った。「今、私はあなたが神の人であり、あなたの口にある【主】のことばが真実であることを知りました。」

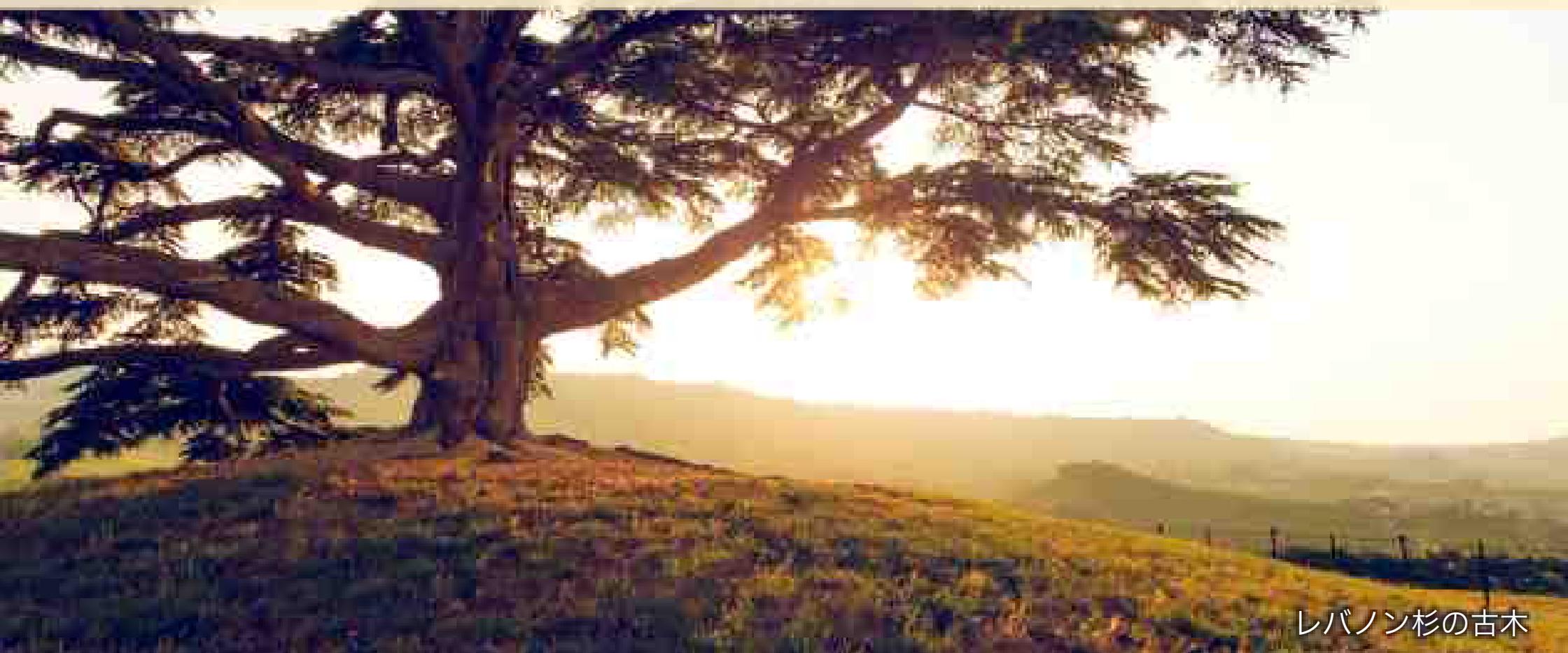
- シドンの異邦の女が主を知り、明白に信仰を告白。バアル礼拝の地で、「**主の言葉が真実**」と明らかに。
➔間違いなく、女は主の証し人となっただろう。

新たな主の証人を立てることこそ、信仰者の使命



IV. まとめと適用

シドンの女から続く異邦人信者の系譜
私も主の証人として建て上げられよう



レバノン杉の古木

【エリヤが示す、来たるべきメシアの影】

■ 荒野で神に養われた。

➔メシアは、幼少期にエジプトに逃れ、40日間、荒野で断食した。

■ 権力者に神の言葉を告げ、荒野で叫んだ。

➔メシアの先駆者、洗礼者ヨハネの姿に重なる預言者エリヤ。

■ 異邦の地シドンへ逃れ、シドンの女の信仰告白を引き出した。

➔メシアは、迫害を逃れて一時シドンへ。

シドンの一人の女の信仰を認め、その娘を癒やされた。

【メシアが出会った、もう一人のシドンの女】

- イスラエルから公に拒絶され、領主に命を狙われ、イエスは、ツロ、シドンに退かれた。(マタ15:21)
- 一人のカナン人(偶像礼拝者を差す)の女が、悪霊につかれた娘の癒やしをイエスに執拗に願った。
- 「イスラエルの家の失われた羊たち以外のところには遣わされていない」
厳しくイエスに叱責された女だったが…。



【シドンの女の示した信仰】 マタイ15:25～28

しかし彼女は来て、イエスの前にひれ伏して言った。

「主よ、私をお助けください。」

すると、イエスは答えられた。「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのは良くないことです。」

しかし、彼女は言った。「主よ、そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパン屑はいただきます。」

そのとき、イエスは彼女に答えられた。「女の方、あなたの信仰は立派です。あなたが願うとおりになるように。」

彼女の娘は、すぐに癒やされた。

【シドンの女の示した信仰】

■ メシアの告げる神の言葉(パン)は、イスラエル(子)に与えられた。しかし、食卓の下の子犬(異邦人)も、こぼれ落ちる御言葉の恵み(パンくず)に預かることはできる。

➡ “神の恵みは、それほど広く深い。主はイスラエルのメシアを通して、異邦人をも救いに導かれる憐れみ深い方である。”

➡ 必死に主イエスにすがりつく中で、**聖霊**に与えられた告白。

■ 女の告白は、アブラハム契約の真髄をも示すもの。

「地のすべての部族は、あなたによって祝福される。創12:3」

信仰が、シドンの女を約束の主・メシアへの信仰告白に導いた

【混沌を深める一方の世界で、ただ一つ立つべき私たちの土台】

- エリヤが影として示すメシアは来られ、救いの御業を成就された。
“主イエス・キリストは、十字架で罪を贖い、死から復活された。”
➔この福音宣教の使命に生きるなら、恐れるものなど地上にはない。
神の国と神の義を第一に歩めば、すべての必要は満たされる。
- どんな瞬間にも、私たちが問われているのは、たった一つのこと。
「主に信頼するのか、しないのか」 信頼するなら踏み出せ、と。
御言葉を通して主に聴こう、聴きとったなら実行しよう。

ますます御言葉にしがみつけ。自らの全存在をただ主に賭けよ。

ヘブル人への手紙4:12～13

神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。

神の御前にあらわでない被造物はありません。
神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。
この神に対して、私たちは申し開きをするのです。

- 「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
 - ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
 - ③三日目に復活(ふっかつ)したこと、
- を信じます。

二人のシドンの女の信仰(しんこう)は、私たちすべての異邦人信者(いほうじんしんじゃ)の鏡(かがみ)です。

主の言葉は真実(しんじつ)です。逃(のが)れうる道などありません。
イエスこそ、生ける神だと告白(こくはく)し、告白し続(つづ)けます。
どうか私の必要(ひつよう)を満(み)たし、
主の証人(しょうにん)として 世に遣(つか)わしてください。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」